

きゅうがめら! TOKKO PRIDE! TOKKO BRAND!

徳之島高校通信

令和5年度
3月号
207号

～徳之島高校から「きゅうがめら! (こんにちは)」～

青い海・緑豊かな大地・赤く輝く太陽の下、イキイキと輝く徳高生の姿をPICKUPしました。

旅立ちの時・・・祝卒業

3月1日(金)に、本校育館にて、第18回卒業式が挙行され、普通科47人、総合学科22人、計69人が卒業しました。

3年前、4月の入学式では、顔も幼く、かわいらしかった生徒たちですが、3年間の間に、心も体も成長し無事に卒業証書を手にすることができました。

この生徒たちも、コロナ渦のために制限のかかった状態でスタートでした。そこから彼らは、生徒会を中心に、常に「自分たちで何ができるのか?」ということを考え、出来ることが限られた中で、様々なチャレンジを試みた学年でした。

また、体育大会に、文化祭、クラスマッチ、修学旅行など、様々な行事において、一致団結して取り組む姿は、徳之島の結の精神を常に意識していたように思います。そして、楽しいことだけでなく、辛いこと、大変なことも、お互いが支え合って成長していく姿は、先輩達が作り上げてきた、徳之島高校の伝統や気風を



しっかりと引き継いでいるように見えました。

3年生になると進路実現に向け、自分と向き合う時間が増えてきました。「これまでの自分を振り返り、そして、未来を切り開くために何をするべきなのか。」という現実の中で、もがき苦しんでいる様子も見受けられました。しかし、これまで培ってきた、「結の精神」と「徳高の伝統や気風」から、前を向き切磋琢磨しながら自らの進路を切り開いてくれました。

今後は、多くの生徒が「島立ち」をします。新たな環境は、希望に満ちてはいますが、未知の世界であり不安も尽きないかもしれません。そんなときは、徳之島で過ごした18年間を思い出し、プラスの力に変えてくれることを願っています。

この卒業生達が、多くの経験を積み、知識を得て、それを徳之島のために還元してくれる日が来ることを楽しみにしながら待っていたと思います。



進路情報

3月中旬までに決まった進路情報になります。

進学では、一般入試の他に、総合型選抜試験や、学校推薦で「合格」を決める生徒が増えてきました。今後も、受験の機会を増やして、チャンスを広げる方法が増えてきそうです。

また、就職を希望する生徒も例年に比べて増加しました。進学だけを考えるのでは無く、「自分が何をしたいのか?」を明確にすることで、多種多様な選択肢になりました。

【国公立4年大】

- ・鹿児島大学
- ・長崎大学
- ・高知大学
- ・宮崎公立大学
- ・名桜大学

【私立4年大】

- ・鹿児島国際大学
- ・宮崎国際大学
- ・九州産業大学
- ・広島工業大学
- ・桃山学院教育大学
- ・専修大学
- ・大東文化大学
- ・鹿児島純心大学
- ・南九州大学
- ・九州共立大学
- ・吉備国際大学
- ・日本大学
- ・女子美術大学
- ・神奈川大学
- ・志学館大学
- ・長崎総合科学大学
- ・久留米工業大学
- ・大阪府岡医療大学
- ・東洋大学
- ・國學院大学
- ・亜細亜大学
- ・沖縄国際大学
- ・福岡大学
- ・九州国際大学
- ・大阪産業大学
- ・駒澤大学
- ・産業能率大学
- ・東海大学

【公立短大】

- ・鹿児島県立短期大学

【私立短大】

- ・鹿児島女子短期大学
- ・純真短期大学
- ・東京立正短期大学
- ・宮崎学園短期大学
- ・常磐会短期大学

【大学校など】

- ・鹿児島県立農業大学校
- ・鹿屋高等技術専門学校
- ・始良高等技術専門学校
- ・九州職業能力開発大学校

【専門学校】

〈医療・看護系〉

- ・鹿屋市立看護専門学校
- ・奄美看護福祉専門学校
- ・鹿児島医療技術専門学校
- ・鹿児島第一医療リハビリ専門学校
- ・大阪医療福祉専門学校

〈美容系〉

- ・麻生美容専門学校
- ・福岡美容専門学校

〈スポーツ系〉

- ・福岡リゾート&スポーツ専門学校
- ・大阪ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

〈調理系〉

- ・今村学園ライセンスアカデミー

〈保育系〉

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校
- ・沖縄こども専門学校

〈工業技術系〉

- ・鹿児島工学院専門学校
- ・トヨタ東京自動車大学校

〈ビジネス系〉

- ・麻生情報ビジネス専門学校福岡校
- ・公務員ビジネス専門学校

【就職】

- ・福岡県警察
- ・あまみ農業協同組合
- ・飲食 ・派遣 ・家電販売
- ・卸売り業 など

4月の行事予定表

8日(月)	新任式 始業式 課題考査(3年普通科)
9日(火)	入学式 2・3年生は自宅学習
10日(水)	課題考査(全学年), 第1回進路希望調査 新1年オリエンテーション, 1年:個人写真撮影
11日(木)	対面式, 手帳ガイダンス, 集団指導 部活動紹介, 1年:ちあふる, 2・3年:学年オリエンテーション
12日(金)	身体計測, 新体力テスト
16日(火)	1年:胸部X線検査
18日(木)	1年:心電図検査

19日(金)	1年:遠行 2・3年:遠足
22日(月)	家庭訪問, 三者面談(～5月1日) デジ活ウィーク・到達度テスト(～5月1日) 検尿一次(～23日)
23日(火)	統一LHR(議題:生徒総会)
24日(水)	内科検診(～25日)
25日(木)	第1回PTA理事会
26日(金)	2・3年:原付車体検査 検尿一次



鹿児島県立徳之島高等学校

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津784番地 Tel 0997(82)1850 Fax 0997(82)1851

<http://www.edu.pref.kaogoshima.jp/sh/Tokunoshima/>



合格体験を聞く会

3月19日（火）に、今月初めに卒業し、進学・就職でそれぞれ合格や内定した3年生による「合格体験を聞く会」が行われました。

「4年制大学」、「就職・短期大学・専門学校」に分かれ、1・2年生は自分の希望する進路に合わせてそれぞれの合格体験を聞きました。内容としては、「志望理由書を書く際は、志望先に行く目的を明確にすることが大切」、「ボランティア活動や総合的な探究の時間の活動、資格取得に積極的に取り組むことが自分の進路に繋がる」、「夢や目標がなかったとしても、自分の好きなこと・やりたいことを大切にしてほしい」等、様々な視点から体験を語りました。

生徒や先生からも質問があり、代表者は自分の体験を踏まえながら詳しく助言をしてくれました。また、会が終わっても発表してくれた先輩に話をしに行く1・2年生の姿も見られ、自分の進路について深める充実した会となりました。



校長雑談 ～徳高プライド～ Vol.6 災害から「信じることの大切さ」を学ぶ

この間、年が明けたと思ったら、もう3月。卒業式も終わり、もうすぐ新入生を迎える時期になりました。新年のごあいさつには完全に時季を逃してしまいましたが、私の投稿は今年最初ですので、お正月にカレンダーを戻してお話しさせていただきます。

年の初めは、本来なら「あけましておめでとうございます」から始めるところですが、今年は「おめでとう」とは言いがたいお正月でした。

1月1日午後、石川県能登地方やその周辺地域でも、おそらく家族・親戚・友人等が集い、多くの人たちが穏やかに過ごしていたことでしょう。

そこへ大地震が襲いかかりました。

その後も揺れはつづき、救助・救援の活動は思うように進まず、多くの方々が犠牲となりました。まずは、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りさせていただきます。

思えば、1995年1月の阪神・淡路大震災からもうすぐ30年、2011年3月の東日本大

震災から10年あまり。「天災は忘れた頃にやってくる」と言いますが、地震だけでなく、台風や水害、その他の災害は忘れるほど、次から次に起きています。

そんな大災害の知らせを聞く度に、私が思い出すエピソードを今回はご紹介したいと思います。

東日本大震災の直後のこと、被災地の避難所でのある警察官と9歳の少年との逸話です。

最初の地震発生と津波の襲来から数日後、その警察官は避難所で食料配布の手伝いにあたっていました。その時、寒空の下、Tシャツ・短パン姿で配給の列の最後尾に並ぶ男の子の姿が気になり、その少年に食料が渡るか心配で話しかけると、「授業中に地震と津波に襲われ、近くで仕事をしていた父親が心配して学校に駆けつけようとしてくれた。しかし、父親は車ごと津波に呑み込まれ、その様子が校舎の窓から



CANVAによる、AI画像

見えた。また、自宅は海岸近くなので、おそらく母親や幼い妹弟も助かっていないと思う」と涙をにじませながら話したそうです。

警察官は自分の着ていたコートを少年にそっと掛け、持っていた自分の食料を手渡しました。当然、喜んで食べてくれるだろうと思っていましたが、少年は受け取った食料をトコトコと配給箱に置きに行ったのでした。

驚く警察官に少年はこう言いました。

「ありがとう。でも僕よりもっとお腹を空かせている人が沢山いると思うから…」

悲劇と苦難の中で、心細く困難に耐えている幼い少年が、自己犠牲と相互扶助の精神を忘れずに持っていて他人を思いやることのできる。その警察官は、今苦しい思いをしている被災地の人々は、必ずや力を合わせて再び立ち上がり、より強く再生進化することができると確信し、そのために自分も力を尽くそうと決意した。

というお話しです。



CANVAによる、AI画像

この話を思い出す度、考えることがあります。

それは、この少年の中にあった「信頼の力」です。つまり、彼はどんなに空腹でも「もう少し我慢すれば順番は回ってくる。必ず誰かが助けてくれて自分の命は繋がる」と心から信じている。わずか9歳のこどもが、どんな苦境に立たされても、これほどまでに周囲や社会を信じることができるという、信頼が生む力の強さです。



貧しすぎると日々の暮らしに精一杯で、将来の夢を思い描く余裕がなくなりがちになります。被災地での暮らしはその最たるもの。食べるものも着るものもままならず、学校や勉強どころではありません。

しかし、少年の「信じる心」を育てたのは、間違いなく家庭や社会、学校で行われていた教育です。だからどんなに貧しくても、どんなに苦しくても、教育を疎かにしてはいけません。教育水準が高い社会では知的で教養ある人が育ち、未来を見通すことのできる余裕のある人々がさらに知恵を絞るので、より豊かで安全な社会へと自然と成長していきます。そして、豊かで安全な社会では明るい未来を思い描くことができ、社会や周りの人々への強固な信頼が育ち、人の心が育つ。そしてそんな心豊かな人々がまた次の世代を育てる・・・この好循環がずっとつづく。

そんな未来を信じて、人から信頼され、人を信頼できる人を育てるべく、来年度も精一杯努めていきたいと思っています。

みなさん、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。